



南總里見八犬傳第四輯卷之四

東都 曲亭主人編次

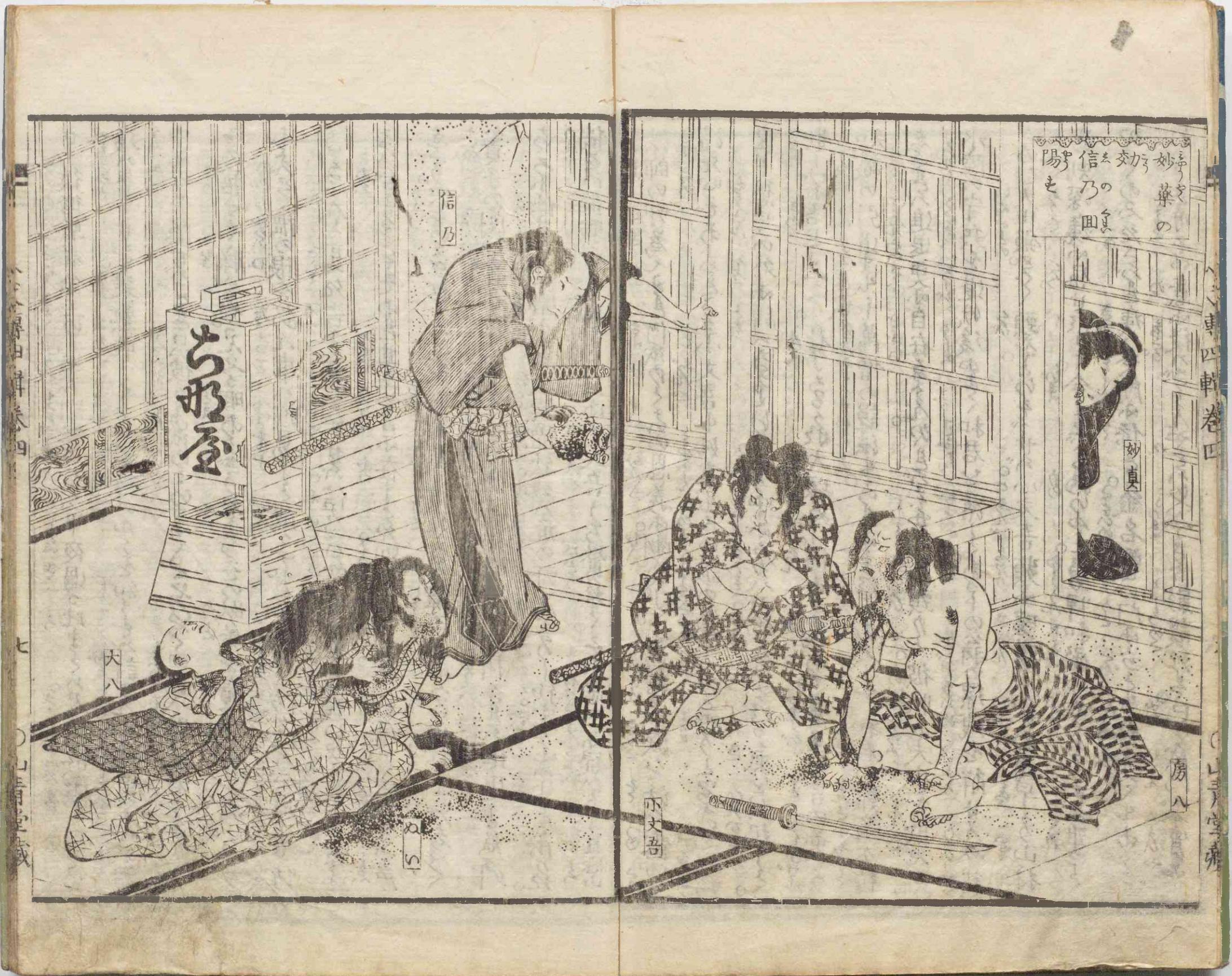
第三十七回 病客 薬を辨へて齡を知る
俠者 身残殺と仁を覺ゆ

毎まい水立たてわがまとも四下よのかせせる器うつわす。何なにをまよと見くまいべ。念王坊ねんのうぼうが迷めぐれる。
彼梭尾貝ひのきおの横よりく行燈けいとうのはとあふあり。あひそく究竟あまうの物ものみみす。とひうらひうらあち
ほく左さ手て小こ取とりて。付つる女め身みを引起ひきせぶ苦くると叫さけび声こゑと共とも、鮮血せんけつハ銀ぎんく漬づる。
瘡うずき口くち不ふ見みを推著すく。南無阿弥陀佛なんむあみだぶつこそそそくと唱うたる間ま小韓紅貝こかんこう乃の
半分はんぶんよ受うけて。小文吾こぶんごハいとく弱よる心こころを励はげし。小沼蘭こぬららんくこと平活へいがく
主おもて。糸いと細ほそく目めをひく。家兄いえの哥が使つかひよど存命ぞんめいて。欲ほよふ遷ときた誠心まこと。
説明せつめいさとく幾條いくじょうを要むすめうとむか。うち少すくなく小れのうん小こも声こゑをひく。主おもてを
起おきされ小こも動うごきままとあら小波こなみの移うごき。疑うなづひ否うそと共とも侶むすめ小滅こめつくやく身みを惜き
みて惜きむ名残なごりハ今いま下くだよが。いふ言葉ことばをかへ嶋しまのゆえの岸きしハ渡わたりて瀬せ
方ほう心地こころ小こなれ。よりの声こゑハ冬ふゆ枯かの朝あさの原はらの虫むしの音こゑよりも哀果あいがく。今般いま
の呼吸きき小こ文吾こぶんごハ毘ひ月つき塞ふさり。武心ぶごんも度どの多泉流みなみる。涙なみだをぬぐ。原來はらゐ小沼蘭こぬららんハ
現あらわす事こと大おほきふ使つかひ。依然いまだが冥土めいとの迷めぐひ霧きり山林さんりんハ彼かれ奴やつと良人よしじんの
大おほきふ推向おきと。房ふさへうち見みく目めとを不ふままれ。沼蘭ぬららんよ。ひうけひうけをゆく。我われり
忠ただ心こころ。之のかく。此ここゝこと。聲こゑハ冬ふゆ枯かの朝あさの原はらの虫むしの音こゑよりも哀果あいがく。今般いま
刀とハあん力ぢからの薄命うすめい。只ただ子この横元よこハ過世くわせいの業報ぎょうぽう勸解けんげい。今いまさうかさうかもふよう船ふね
乞うながふああままが夫婦ふぶの鮮血せんけつハ世よ小こあり。死死後ごの金剛傑こんごうの死死を起おき。荼剎たしゃと。あ
乞うながふああまま功ご徳とくハああくく。之のを迷めぐひもまま正念じやうねんと。ああかかり。之のを海かいされく
うち点てん頭とう。そそななく。ああくく。房ふさへ頭とうを落おちす。そそくも益ます。
骸ほのきもとも今いま下くだよ。又またも。ととうち歎たんけ。房ふさへ頭とうをうち掉おちす。そそくも益ます。
歎たんとまざん皆みな是これ諱言ひげん。又またも。女め々めかり。面おもてを解ほどく。口くちハ大おほいのととそ。布ぬのを解ほどく。程ほど小こ嘯うなが。今いま要うしな時とき五ご侍し。も告別ごべつを。と外ほかよ。密音ひそかに立たつ。禁きん止し。之のとまざん。ああい。ままう。ととち。走はし。ととも運はび。ととち。身みの舞足まい。是これ戸と山さんの妙真みょうしん。開あく。入いり。又また闇くろる戸とも走は。ととも運はび。ととち。身みの舞足まい。

良人の歎きあり。父とりとも誰を恨ん大家歎死ハ理りうまべ。今更
 千萬口説も要らず。後世のいとま肝事あらんと諫く。死て房八がほとう近く
 おをよせ。布引解ハ漬る鮮血を受る法螺の貝吹き。平常の風をもき。
 死天の山伏け登ア。岩懸ひ鷲の峯入小夫婦身を掖き子を負て往方へ
 まえりあどちまうみり。十萬億佛土蓮の臺法の雲踏み迷ひそと薦めたる母も先づ唱名乃
 声も涙ふ口隠す。程小犬塚信乃ハ墨衣小文吾と房八がうち合へる
 大刀音の子舍へゆき事す。身を起えとあづま。腰の立ね枕辺。刀を身に枝小も身を坐行し
 身を起えとあづま。腰の立ね枕辺。刀を身に枝小も身を坐行し
 息を吻た幾向もあらぬ家の内を虫の歎へ如く。出居と前房の間ある。
 障子の障子ふぞくと死房八がや瘡を負ひて。もの赤心を諦へる。彼條の
 物す。その妻み子の横死のゆきえやつて。病苦も外ふきまぐ。且教罵き
 且悼き感涙を禁じ。人を名ふ身もよろしく僅乎障子一隔。そめ効
 よあらぬきも苦痛頻ふ嗜ふ。其れよ俯きを。かく又小文吾。
 信乃が爲ふ房八夫婦の鮮血を見ふ盛まみ及び。信乃も愀然とてゆき御よ。
 頭を擣り。死を憎む。則天の心す。君子へ庖厨を遠ざる
 とそひのうか。今こそ命終むとも。ひでえ義士節婦。のち
 づゑ人の心操を興見ふべく。謝り且受へ。身を被房八が孝。あら義ある。
 類を古今小よく得た。こが身も翌日保て。息の内小對面。志を告ぐ。
 と辛く坐行く進み近づた障子の腰ふ。挂ても開る。うすとの力がふ。
 おも果て身の衰微を。朽木くらひ多。當下小文吾へ鮮血を見ふ。受く。
 房八はそく奥へと頤く頻ふ進る。小文吾猜くうち点頭。甲夜う思ひ
 事小紛。下べも彼人の病を訪。暇うまく。今さか心か。かくまぐみ
 とまわ。

調ひ。良薬を空せん。されどもあがふ身を起し。溢るまくか血を盛る。
梭尾目を右より持く。子舎へと遡り。障子と莎羅と引開く。進みゆえ
とゆす程ふらう。信乃は足踏み。跌膝く持つ。見と忽地破とうち落せり。
信乃は肩より脛腓まで。透間もく血を沃まろ。衣羅をきび肌膚み徹く。
あきずも。あはれ。あらう。あらう。みのうち。ひだり。彼瘡口小流入り。苦と叫びて仰反り。小文吾より驚遽てこゝる。す
是信乃あり。そもそもの程より。大塚へあく。不思議よ。獲
う良薬と。うち落せて。そひと惜きとて。やよん。かせんと後悔て。ふ
たのよ。もうく頃と。座へて成かけ。起せども。や氣息す。声立て。呼妨。
カタマリ。ああ。倘念王が覺めやせん。といへば。奥の。匣あり。のふをと。氣と向く。扇さま
ざ多。妙真も。ころ。互体を。外ゆ見入へ。座すゆ。行燈の灯口推向て。
ゆふくと。向ふ程。小信乃は。睡の覺めが如く。身を戦へ。目を開け。吻と。自
起。色忽地田陽。枯る枝ふ花。にく。腫色つた。金瘡。瞬間。小
結痂。邪熱祛れ。身へ。軽く元氣。平日。よいやまく。心地清々。あく。まづ。ナ
ニ。尤。小文吾の光景。再び呆れ歎び。さが。愆て。うち被。薬血の効。あけ。ま
と。そと。めく。瞳。やまと。面を起し。杖云々と。坐す。妙真も。亦。ひふ子夫婦のみ。あ
い。本意。あく。と。稱。當下。信乃は。形を儼しく。小文吾。ふうち。對ひ。屋裏。ふ大
ちかと。き。刀音の。ゆふ。よろ。のと。公力。あく。苦痛を。かげ。身を坐行。あく。まぞ。そ
き。あく。も。障子を。開き。あく。を。脩。緯の。題を。うち。ゆく。かく。小感。あく。
あれ。彼丈婦の。血を。あく。ひ。破傷風。小沃ん。ハ忍ひ。がく。所行。宣。推辭。そ
と。ゆふ。殺。小。跌。ま。ひ。の失。ゆ。うち。被。ら。ま。鮮。血。の。効。疾。病。病。立。地。水。本。復。
いまさうち。今更。辭。ま。あ。由。あ。と。そ。恩。を。謝。義。を。感。じ。且。妙。真。を。慰。免。く。共。佑。ふ
房。ハ。ほ。う。ふ。り。ゆ。と。對。面。姓。名。を。告。う。そ。義。勇。を。譽。恩。德。を。新。ひ。く。二。の

死を憐り。今生ゆく交る日の久々を爲歎なる。又りゆゑ。某とちとぞ。
和敵夫婦の恩みより。難治の全瘡愈へども。和敵夫婦を生むる良薬
を。恨う。幸ひ難を脱き志を得て。衣を深う
鮮血を後までも。私心。この恩徳を子孫傳ん親の迷刑を守り。之。
ゆゑ。怨と解げば。死でも事の済へ。可惜義勇の壯夫の。その身のうれ
妻をも子をも殺さず天道暗々か懲す。嗚呼あきらめ。命といはん。歎且毋
御前のひと賢き内室のひと貞き。その子も成長するを忠孝義勇親の肩に
世の馬傑を。死小後す。をもんへいと惜き。加旗大田親子も亦是忠信孝
義の人。斯良吾の人の縁を結び。義ふはき。彼柱津日の神戻。其家の
靈廟へ來り。小憂事。繫ぐ船あく。死城救と。是れと。今又難
治の病著不思議。小愈す。も教ひ。まも經を補。菩提を吊ふ。追薦。圓向も
法師の所為へ。是れ何底ゆく。おの恩義。ふ剛べし。と感嘆の涙を流ぐ。露の玉
清れ心ぞ。あはき。小文吾も。眞も人の誠の憑く。と理り。と。の。慰め
子一愁嘆の外。小辞へ。あきけり。そぶ。中。小房へ。絶えん。と。の。氣を
引起す。歡び。信と。是れ。君子うち。大塚ぬ。信あり。義ある。賞美の言の。兼善
知識の。引導も。千萬僧の説法も。あき。ふまほと。おべし。和君の。難瘡。本復
を。進退。更。自在。あき。か。且。が。も。己。が。頭。か。と。の。氣。と。引。起。と。
水陸の守兵を。退け。後。坐。と。和君を落す。あ。の。公羽の。縹緥を。解せん。众錯
數刻深瘡。小屈せ。今までも。おり。と。勇。悍。和敵の。如く。も。存命。ぐも。あ。う。ざ
か。く。あ。ぐ。死。が。と。瘡。ハ。祭。所。小。文。吾。頻。小。嘆。嘆。と。も。早。う。山。林。
れ。が。亦。そ。の。意。小。從。ハ。が。う。ん。や。と。う。今。ま。う。影。護。だ。と。已。と。死。済。お。金。膏。膏。



せ。彼修驗者念玉のミ渠ハ別室小を。甲夜過る比ヤムハ尺八を吹謡。その後ハ音もせず。渠熟睡。一毫も絆のゆうを知らず。と許さん。今世の世人矣。中少刀を隠せば。と只。彼がの爲のみ。少くともひく四目八臂。あらざり。その宿。或。寐。或。見。ふ。暇あらざり。まづ。その臥房を窺。う。詫。う。あ。あ。少く禍の根を。あん事ハ浅易。と成。す。と。身後を防ぐ。心盡。も仇。名ひ合はる。と。そ。ゆき。某子舍。小在。と。死別室の。と。欲。とかほく。密譚。ふ。声。き。う。只。そ。あ。て。私。と。ゆき。嚮。か。某。彼。死。う。障。子。の。あ。あ。在。と。え。あ。く。貢子の聞む。音。せ。う。凡。多。と。欲。せ。小。病。苦。甚。て。折。す。六。進。退。と。疾。や。を。不。任。せ。と。目。暗。と。人。欵。猫。欵。或。角。の。呼。爲。き。一。欵。定。ク。火。空。と。並。り。死。カ。倘。そ。修。驗。者。ま。に。や。と。り。小。文。吾。うち。敬。萬。多。く。そ。れ。念。玉。ふ。疑。ひ。す。且。密。

旅小裏より墨漆の麻の法衣を腰短小襷端折りと白襟が脚絆を穿頭陀籠を
背負ひて左ひ小綱代ひ笠を含ひ右ひ小錫杖を突立し徐々と移りて上坐ふそ
著うけひあひ見え大弓又修驗道觀得へ鬚髮を髪結して段々筋の
麻衣を晴奴の野袴の段子の下縁取らば腰印ふ著ふ。朱鞞の両刀を跨ぐ
白木の小四方ふ書札四五通衆ふ紙恭く捧持く、大が次の席ふ著ぬあひ
蜜崎照文あひてひみるれのちとば誰えあひを怪ぶる。その吉凶を料
みたかの心せきとて當下、大も席上をつゞくとうらゝとぞ。人をあうと詫
す。そ初う實をりく汝達不告ざりへひづかよりわむべこれ八年來故ありと仁義
れし忠信孝悌の八個の文字がのこり目見てる八顆の玉を索んで為ふ六十餘西と
行脚をまでも一个の玉をもあらととうやだ。かく今茲五月の初より杖と簾倉小曳く
程。昔歳竹馬の友とぞ。蜜崎十一郎照文が君命戎宣不あり賢良武勇の
浪人を志のびくふ募るゝ。閩東ある國を潛行く小環會ぬ折ことの行徳ふ云
ふ。力士ありそぶ一人ハ筋骨ふ黒大立ち癌わやく牡丹の花よ似うとの風聞灰ふ火
う。その癌牡丹ふ似うとおへあひもろよ。わひとそび脅力をも試ゑく又そひ癌ど
見ひよ。始ふく竊ふ十一郎と示合。こまと六簾倉の修驗者念玉と假名を告り。
彼も亦簾倉の修驗者観得と假名を告ぎ途多く從者と傭ふ。衣賞も行
李も似つうり。山伏ふ拵立く共侶みとの浦ふ。先達職得分の争訟ふ假托く
いぬる日八幡の社頭。大田と山林が相撲の勝負を試み。小技も力も甚しき。優
さむ。但房へ小文吾み藝術聊亞。其のもの折果と大田が癌を眼前ふ。己へ
主をゆく。捨てたれひあひ。おひどく。ヨヌ力ゆく智恵うれひ。是則牛馬ふ
等。兎勇ゆく残忍。且え則虎狼ふ等。縦大田山林ふ。人ふ。捷。一力藝芸あり
も。その心術正しくも。薦るふ足るのうど。とく行状を見究て後ゆること深

念り遊山既水假托。十一郎共侶の逗留。今宵乃び。かくきの火甲夜乃
 間。ふと賓里。夕やをすく呼んで。応じゆる。よどと背門よりへりんと。
 漫々立達。生垣の間より不圖うちせけ。わたり親子の子吉。犬塚。犬飼等と團
 坐。彼玉の。心の。又。彼額藏の。莊助がるまえ。噂せ。を。竹とへり。小竊作。
 又。廻窺つ。未來の宿望成就の時到。ひづれび。餓鬼。よし。地藏の宝珠を
 見。ふ勝。さが。その宵。ひづれ。宿。も。背門の庭。よ。取。か。十一郎。旅
 宿。ひづれ。宿。云。云。の。よ。を。告。謀。あ。今宵。え。ふ。宿。と。鶏。鳴。東。
 廣。死。圓。ふ。も。類稀。る。房。へ。孝。順。義。元。の。事。の。逸。大田。親子。が。良。善。信。義。及
 大塚。が。賢。み。く。薄。命。る。又。犬飼。へ。友。の。薦。小志。婆。浦。ふ。え。り。く。そ。ぞ。う。の。憂。
 苦。艱。難。窮。ふ。え。り。せ。り。且。感。ト。且。悼。る。ひ。袖。え。ふ。濡。り。ま。う。、除。世。の。貧。
 せ。り。其。如。小。在。る。外。も。有。繫。ま。て。生。く。こ。ざ。人。の。う。説。諦。ひ。死。時。宜。の。う。ま。う。

痞。の。中。成。入。果。と。か。ま。で。ふ。時。を。復。今。い。か。と。ゆ。の。ふ。行。李。を。披。ひ。て
 姿。を。更。め。旅。と。旅。ふ。寢。と。よ。る。ひ。ま。で。行。脚。の。老。僧。う。と。入。ふ。而。ま。く。且。房。ふ。
 そ。の。妻。そ。の。子。の。臨。終。正。念。幽。魂。解。脱。の。導。師。と。も。う。や。と。二。千。年。あ。ま。り。埋
 木。の。巣。鳥。鳴。月。の。昔。衣。舊。の。姿。ふ。ち。く。る。も。ひ。れ。も。昔。ハ。夏。憂。ふ。暑。日。捨。果。一。世。は
 戒。ハ。貞。婦。と。小。兒。の。枉。死。ひ。く。ば。む。一。命。を。歎。か。く。口。づ。き。ハ。數。き。よ。ど。南。無。阿。弥
 陀。佛。と。唱。く。そ。の。既。略。を。ぞ。説。示。を。當。下。延。崎。照。丈。ハ。扇。を。膝。よ。推。立。諸。賢
 者。う。か。う。そ。不。口。や。と。主。君。里。見。歎。ハ。丈。を。右。手。武。を。左。手。當。時。無。双。の。良。將。う。
 この。故。ふ。仁。義。あ。わ。う。が。直。ぐ。動。を。あ。は。き。禮。智。ふ。あ。ふ。言。ふ。起。ひ。す。ど。忠。信。ふ。わ。ま。れ。
 育。ひ。ま。う。ご。孝。悌。ふ。わ。う。び。賞。く。ま。う。ぞ。う。ま。う。も。安。房。上。總。ハ。南。嶋。の。畫。處。あ。り。
 賢。と。招。く。ふ。普。ふ。よ。や。と。某。主。君。の。密。談。を。奉。ア。封。疆。を。守。く。英。士。と。募。め。

ハ大傳四轉卷四

山龍堂藏

貌無双の未通女あり。故ふ八房の大伴と富山の奥へ多ひ。絶えも力汚直の力を法華經讀誦の功德ふよ。彼犬さく成佛せり。必ずども因果脱れさせゆ。必ずそぞの氣感し。懷胎六ヶ月乃至び身に羞て自殺をす。折その瘡口より一道の白氣忽然と立冲く。彼感得の数珠共中天小足光を乱す。仁義八行の文字見まつる。その八个の巨工ハ方龕行し失く残り。地小障より。且謬く鳥銃りく件の犬を斬殺。刺姫少傷けれども君公の仁慈あり。當坐の自殺を禁む。親某が駄吉と前刀捨法を出と誓ひ。故郷を立去り。あるふ汝達頃ハホヌ彼大川社助も感徳の王ある家を許す。ひのうで失う。八个の王の徳方を索て。又舊の数珠ふねばかす。けく。その玉小見見る。文字ハとがの故珠と符合を。且彼八房てふ大も。その毛白と黒。花雜へ。黒牡丹の花ふ似る。その數八个の瓶をあらげ。八个の花房とりの義をり。八房と名づけり。ちろふ汝達社助ホまで。四個ハ俱ふ身中。その癌牡丹。小似る。小やだ。かれが毛汝達。かのく父わく。母あれども。その前身ハ伏姫の胎内より顎と走り。白氣の生まる。もの欲す。因と推す。果をむく。皆伏姫のあん子ゆく。義實朝臣の外孫。且。かく。あ氏。或ハ大塚或ハ大川或ハ犬飼或ハ犬田と皆人をりと稱する。是不可思議の因縁也。かまふ汝達四人の外。又四個の犬士ある。その相似る玉と癌を貪足をきらむ。疑ひ。今その人をぬどり。も。竟ふ全く聚散を。が宿願。稍時到。あく。小半を果す。疑ふまが。と。説前。伏姫の像見。數珠を取ゆ。示す。信乃小文吾。豁然と玉の來由を感悟。遠く彼数珠を受く。とおどを。ふ。あま。あま。異なる。只頗る文字ある。數珠ハ百顆ゆく。數と。やめ。八个の巨工す。

け。原来吾们が所持あるのみの數珠の巨玉をもと後どもあつて
云々。過世怪しむ兩犬士と俱ふ妙真も感嘆とく件の數珠を見る時も幸めく。
縛引。夫婦の耳も入りて至る。房へ苦しみふ吻と息と眼を瞬り。よみ
義次を人さう。子の横死へ惜む不足を。がその隊小入によく見。あらん
後まごと欲を。噫憾べ。憾べ。只管嗟嘆ちよまけり。大へあまと憐み。
えふ所と立す。やを身房へさのまお憾を。汝犬士ふのまとのふだ。その義
烈ハ武士と共に後の口碑ふ傳ふるまんや。且不則汝が祖父安房の山木の朴平が
武藝の師あり主より。金碗八郎が獨子え八郎大への自殺のる。定包と討滅せし。
功成名遂。榮利を願へも死へりゆくじふる是忠臣のまろき。と重け置ふ。彼
が平が失も。尤も父の憾る所。誰うあまをす。せん。唯この順孫房八郎と。祖父の
惡名を雪ふ足る。やまくと。今汝が為。小朴平が疎忽の罪を。父のまゝ。宥る
め。す。ちよ戎冥府の累根。清果を浴すと諭。一言辭をちよく小腹へ信と
向上。左手を阮。頻小、大をうち。拜ひ。飲ひ。と妙真ハ又。哽かひて哭ふ
けり。且とも。大法師ハ妙真が。ほどう小卧。大がじ體。二見かう。又。嘆
息。この小兒憐ひ。死と時を歴。至。その血色変。さう。生す
如く。故う。亦奇。とひよ。小脇を突く。力を死體を抱ひ。す。
そよ。懶。來。と。脈を診。と。左の手の寸口を楚と食。大ハ勿地
せ。生。と。哭。と。頻。勝。生。と。よう。握語。左の拳。初。機。を。う。け。る。
當。の。中。小王。わ。す。信。の。小。丈。五。ホ。が。王。と。裏。ふ。と。是。仁。の。字。見。ま。う。加。旗
大ハ。腋。壯。少。痕。り。そ。多く。单衣の腋。散。よ。黒。か。ふ。刃。え。う。形。牡丹の花。ふ。似
ふ。父房へ。疏。ら。ま。と。之。の。癌。ハ。の。床。一。を。人。ま。か。今。ま。ぐ。走。う。き。を。け。り。
九。の。席。か。あ。ま。と。あ。う。め。が。る。奇。特。小。敬。鳥。嘆。と。歎。死。を。復。を。歡。ひ。の。声。ハ。早。慄。ふ

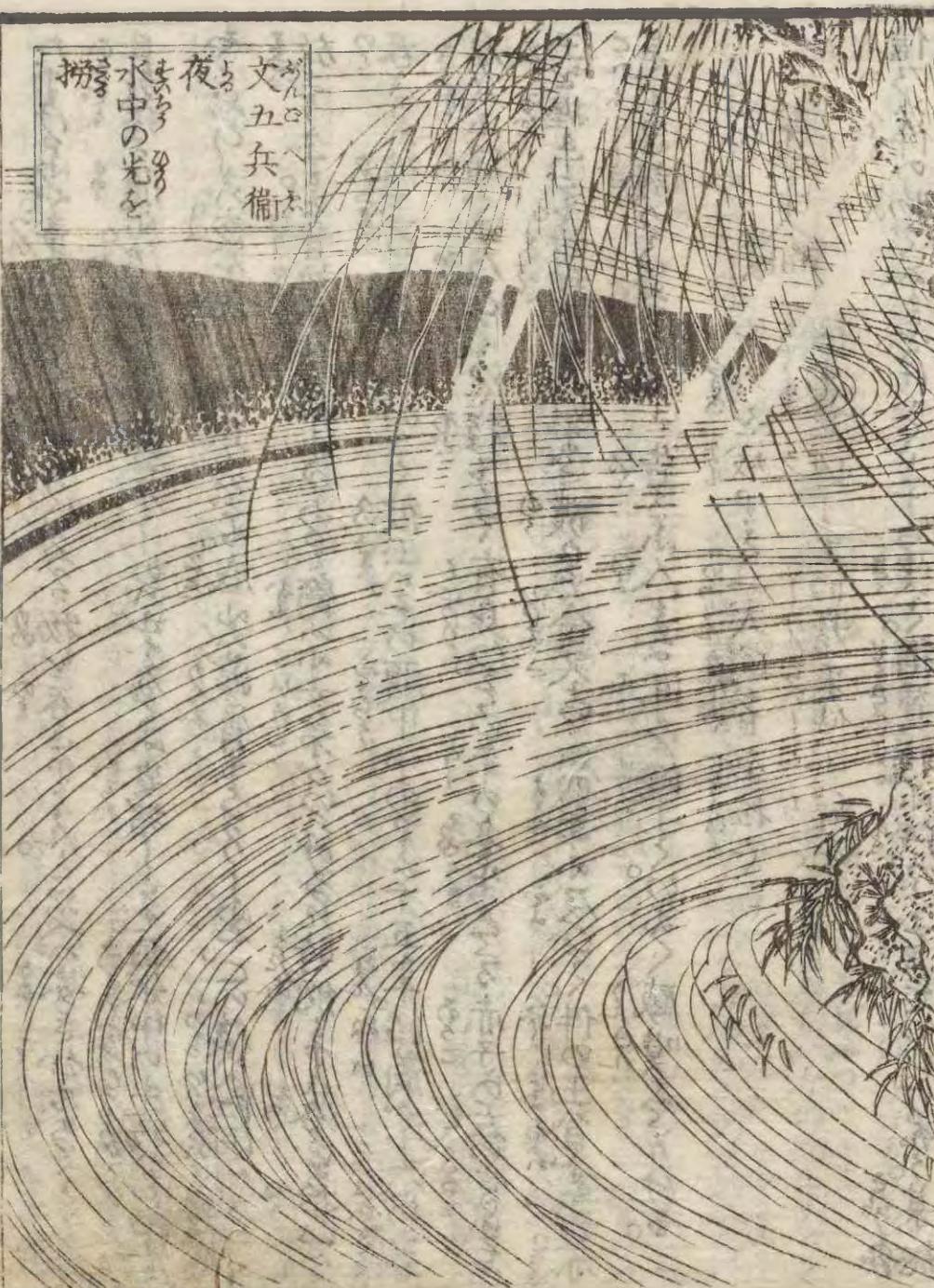
雨あり。枯ら稿み八束穂をひつふもあ内勝ゑべ。そが中少妙真ハ教ひお玉
病を拭く。小文吾と共侶か入め負ふを懲め。耳の刃よ高立て房へよ。やよ
ち沼サ蘭よ。大ハき姓生く。如此この奇特あり。まつたと稚兒を引。名くよせ
玉を見せく。やよ哨と呼。結とぶ房へゆく。頭。原来。子の宿世の渠を
坐艸の上より。まつたの拳と機ね。憚弱者と。賤。大ハとり。渾名。貪せ
う。もか。まで。小親玉すと。沼蘭へ目をむか。あみ。通
さく死。そまを冥土の餓別ふ。受る親え果報事。母もまそひわる。通
う。死。子を産む。と。誓ひ。沼蘭へ目をむか。あみ。末期の句
果敢えも。玉の緒終小絶。嘲りと惜し。と妙真もむすれ體よ。ふく。
あ。いせよ。嘲り。ぬぬ人の數少入る。親う。あく。大ハ母邊。哺乳。賜て。を
携え。と。小文吾ハ。そくせぬ。後。抱た。田めて。もと。あく。海へ。船ド
哀別離。苦顔を背け。法然。下戸山の妙真。へ。頭を檼。深。うち。かく。大
等。みき。對ひ孫大ハが。生れ。あく。かの。玉を。握。ア。する
故ゆ。彼代姫。ア。かく。菩提を吊せ。多。道徳の。かく。身。觸。まく。うち
ひ。ア。かく。江屋と。身。續。今。ま。あ。人。亦。大。とり。字。を。冠。せ。い。も。不思議の因縁
あ。願。う。今。ま。孫。名。を。大江。真平。と。呼。ま。し。物。の。数。少。足。く。ど。も。大士の
後。小居。ア。かく。今日。を。聞。る。親。へ。孝。養。あ。且。ふ。ナ。居。工。修。う。と。疾。う。が。う。ふ。か。た。口
す。あ。ま。か。と。身。續。大。ハ。仰。く。蒙。企。と。うち。笑。告。哉。と。祖。母。の。情。願。氏。も。家。號。も。主。を。識。と。大。紅
く。ん。亦。奇。え。且。そ。親。房。へ。身。を。殺。と。仁。を。う。そ。り。よ。ま。そ。の。子。の。仁。の。字。の。見。れ。こ。

王を治め。仁は五常の最上力の延天の心めり。賢者もとて居る事難い。今富山
 親代と大士の隊ふ入るゝあらが。その眞の字を。おと讀む親の字ふ写更に。大江
 親兵衛仁と名告ふ。その子ゆく親うへ。房へ再生く。大士の隊ふ入るゝ等。
 且房の二字を轉倒せ。是則八房入沼藺を轉倒せ。是之いぬス妙真が俗名もす。一
 戸山と富山と和訓多。俱ふ名詮自性ゆ。八房の大富山ふ因わス妙真ハ真俗
 二諦。一念三千の妙旨ゆ。二の夫をの子。その婦と俱ふ清果を得るの義尊をの
 褒の船を推せ。房ハが祖父あり。才平が失ふ。光弘ゆを祀セ。嬖妻玉梓
 時をゆき。延臣定臣を佐ケ。主家を攝領せ。ふ起立。又福の基を推せ。才平
 獨子ゆ。大江屋真兵衛の性直ス。かくこその子孫の源。舊心を擇ルと欲ス。
 慈善の誓願と發せ。とも果ス。その子房へ送命を守。身と殺して仁を守。
 則二世の功德ふ生ス。因果の脱生。不見と鳥の林ふ集る如く虫の草ふ取る。ふ
 ゆ。悟王が死のと。かまふ。その死と歎くべ。其の生を樂め。ふ云々。ふ
 先あめ。ゆきやむめ。ふ。と解示せ。金梢を明の醉。あ。有一阿と感。ト。當下小文吾膝を進め。大ホ
 り。ゆ。道徳の教化のと。か。就く又一條の奇談。あ。外姓大への親兵衛が玉を
 握。まく生。今。さ。ゆ。合。も。よ。某總角。き。一時。二親の夜詰。往時寛正
 三年の比。と。この入江河の水中。夜。あく光明を放。とあ。ま。り。人。ま。怪。み。る。ふ。
 怖。と。水底を。探。る。ゆ。父文五兵衛。ハ。年。來。漁獵を。嗜。小。り。一タ網を。持。て
 り。え。る。ゆ。入江河原小。敷。な。つ。件の光明を心。あ。と。あ。づ。く。網を。か。う。て。の。う。物。と。ふ。難。ら。有。ふ。
 そ。と。の。ぞ。う。も。其。れ。ふ。望。を。失。ふ。そ。の。曉。う。ふ。宿。呼。よ。か。つ。次。の。日。網。を。乾。え。と。引。揚。く。擔。樹。る
 え。網。の。中。ふ。物。あ。と。そ。漏。落。う。と。か。ぼ。く。錚。と。音。ふ。け。と。お。の。年。沼。藺。ハ。二。才。入。
 観。の。網。を。乾。え。と。そ。漏。落。う。と。か。ぼ。く。錚。と。音。ふ。け。と。お。の。年。沼。藺。ハ。二。才。
 し。ふ。父。を。吐。嗟。と。驚。れて。そ。の。口。中。へ。指。を。さ。へ。全。位。を。も。厭。り。と。探。ま。う。ど。も。や。呑。下。

八犬傳四轉卷四

山清堂

文五兵衛



たまひふる。竟み及び止む。りうち物を呑むもと。そへ安きもく。ひ
ひ急ふ。あ。ぬいつが。隨ひ。沼蘭へ志もあらず。か。すゑふ安堵。そ。彼水中の光物。名劍。不
日数経。隨ひ。沼蘭へ志もあらず。か。すゑふ安堵。そ。彼水中の光物。名劍。不
やとゆひ。が。夜を犯し。網せ。か。底少。藻屑もうろこ。この後。江河。光明を
放さ。と昔語ふせられる。あ。顧ふ。小女弟。が。つけ。時。網よ。落。拾ひ。之
を。みま。春。彼玉。あ。極。か。く。彼玉。は。その腹中。あ。と十五年。沼蘭。十六歳。の春
房。八。帰。ぐ。ふ。及。び。そ。り。程。も。き。有。身。つ。その年。冬。生。る。赤子。の左。掌。ふ。の
玉。を。握。み。ど。時。到。ら。ね。び。ま。ご。攢。む。今。又。あ。四年。ふ。及。び。件。の玉。見。と。あ。亦
れ。ふ。一。さ。是。不思議。の。ゆ。き。だ。や。と。告。る。小。人。ま。耳。を。澄。し。り。よ。く。感嘆。を。う。ける。

第二十八回 戸外を成。と。一大間。首を拉ぐ

信乃。ハ。件。の。物。が。手。を。ほ。く。と。う。ち。笑。て。四。彦。来。使。小。辞。を

角。あ。と。時。家。ふ。畜。あ。る。犬。の。る。べ。昨。夕。あ。下。親。子。ふ。告。み。た。そ。め。折。ふ。外。よ。う。す。ひ。え。道
徳。ふ。も。空。と。と。ま。ん。彼。巨。大。を。與。四。郎。と。名。づ。け。よ。ハ。其。全。身。黒。白。ハ。ケ。の。斑。毛。あり。そ
の。足。へ。み。る。白。う。因。て。四。白。と。い。文。を。詫。す。と。與。四。郎。と。呼。づ。く。後。か。そ。の。犬。の。斃。れ
ト。ア。子。麗。モ。世。ふ。り。ハ。房。の。梅。と。且。そ。の。梅。子。ふ。仁。義。云。云。の。ハ。行。の。文。字。見。れ。と。鮮。か。ぞ
一。時。庭。小。埋。う。け。う。次。の。年。そ。の。や。手。を。う。梅。ふ。最。も。異。う。子。と。ま。く。一。藥。ふ。
玉。を。呑。ぬ。よ。知。そ。と。末。を。歴。そ。王。モ。犬。の。瘡。口。よ。忽。然。と。顕。出。某。が。む。ふ。入。手。梅
の。異。名。を。木。母。と。の。木。母。ハ。則。母。の。木。え。今。二。の。見。と。う。王。ハ。か。の。く。母。も。そ。の。で。來。り。日
久。あ。の。も。あ。き。る。
彼。梅。子。の。ハ。房。ふ。生。と。と。與。四。郎。大。が。八。个。の。班。も。と。み。る。か。が。う。因。縁。あ。り。と。か。う
魚。を。安。ふ。曉。ぬ。と。か。旗。梅。子。ふ。八。行。の。文。字。見。ま。ー。も。亦。某。と。莊。助。と。外。ふ。も。六。個
の。豪。傑。あ。ま。く。そ。の。相。似。う。王。と。癪。と。異。足。あ。つ。を。告。ま。伏。姫。上。の。神。靈。を。通。神

のまゝ員外の大士けんふがおひのをもと答る間まあらまの惜む別を促く貞よ。
時ときの鷄けいの吉よ立たつ天あめ明あけととを乱まき鳴なく房ぼうへ耳みみを傾かしづくもや鷄けい明あけを東ひがしを
あくまん數すうをよろて時後ときあとをうるも遂ついふ空事うつことをべ。河舅かとうに分錯ぶるむ。
そくと焦燥じょうそうを小文吾こぶんごへ今更いまさら推辭すいしをさうねども猛死覺めいしきよ期ときふのを。東ひがしを
足あしも進すすまき拳こぶしも撓うなづく心こころをあく立たつく。當下とうとう越中えちゅう照文てるもへ房ぼうへ小文吾こぶんごよ
うた、對たいひく人ひとよ。口くち言ことを聽きけ促せきとも惜くわむと生死せいしを天理てんり自然しぜんふくと亦
ゆふとも沒なきをもむう。父十郎ちじぶつろうへ伏姬ふしき富山とやまみ入り。日ひかん傳つたを命めいせぐ。馬
直ただと汗馬かんばふ鞭むちうつく姫ひめうを追おい。彼かれ山河さんかのあれ懶こだまとひこさんとまろ寝ね。馬
俱ともふ推流すいりゅうきまく其そのれふ命めいと捐けんす。まくさふ東とう此度しど君命きみめいを稟うながき。大約だくわく関かんの
八州はっしゅう。賢良武勇けんりょうぶゆうの雛傑ひな傑を募めぐらんと欲ほす程てい。大法師だいほうしふ理り會くわい。その引接ひきよせふ修しゆ
おふく。伏姬ふしき上のうい子こ小築こつきれ四大士よふ相見あいみ。賢けんを括くくの本意ほんいつふ稱めいす。さすが
山林房さんりんぼう八郎はちろう。義ぎ。勇ゆう。大士だいし。芳よし。非ひ命めい。今終うつるとも。宜里見ぎりみの家臣けいし。方かた。公こうの徵書せいしょ。小こああ。拜受はいじゆ。夜臺よだい。就す。子こ親おやぢ。幼わい少すくなと。も
君くわん臣しん二に世せいの恩義おんぎ深ふかと身後みのの榮栄子こ孫その為ため。も亦ようそうそや。と薦薦揚ようのころを
述のべ。小四方こくわん。一通いつうを取とあげ。房ぼうが額かほふ駕羽かほ。又また小文吾こぶんごを取とあげ。大田生おおたう。この意のいをひかる。秋房あきぼう八郎はちろう。けのう。里目入さとめいりの家庭かてい。も。その方ほう必ひ死しそう。乃のら
深瘡ふかうを負うぬ。かかと不ふ忠ちゆう勤きん。小餘こよ日ひ。口くちハ。そその僚友りょうゆう犬塚いぬつか信のぶ。が厄やつ代し死しを救すく。之のも
主ぬし君きみの為ため。も。是これ莫大ばくだいの忠ちゆう。義ぎ。救すくひ。深瘡ふかうと知し。も。までも
苦痛くわうを。も。負う。も。錯まち。も。亦よ。側そば隱ひ。と。將まつ大だい。武ぶ士し魂たま。小文吾こぶんご有う理りと。ひひく。も。脇わき
刀と引ひ。搜く。も。身みを。起お。也よ。房ぼうへ。先まへ余よと。うち。咲さく。也よ。鄙ひ言ごん。の。入い。ハ。武ぶ士し。世よ。ハ。唯ただ。も。登のぼ崎ざき
ぬ。百子ひゃくし。意い。謝あや。も。ふ。餘よ。も。と。賤せん。也よ。船ふね長なが。の。子こ。ふ。生う。も。も。幸さい。も。そ。武ぶ門もん。ふ。入い
そ。死死。を。ぬ。も。さ。バ。阿お艤じ男の。の。刃いん。を。勞なぐ。せん。り。ご。分ぶん錯まち。と。掌て。と。合あ。く。項こう。を。伸の。ぐ。

八大傳四庫卷四

八大傳四車卷四



八大傳四庫卷四

八 大傳四轉卷四

大々の案内うゞ。因そをきくうち任を。あらぬ人と密出者、現八ゆくもち点
免。その事へ心やすむ。大塚生と相譲る所なかもとぞ天へ既承明れ。猶も
頭。かう暗る。今朝ぬめく。謫立ためく。咫尺の間も別うす。さすが鳥の声がふせむ
る。己の足をすりせば。この霧吹く。齊べづを。皇天后土五口黨を祐すまふゆぞ
わんまん。ゆくや。ゆる疊くとも。縿の妨あくどとの當下、大へ照文と見す。既み
一矢。四大士を。ふ聚衣令。御淀を。僕へあひて。とりのふ照文と。ろく信乃。現ハ小文吾奉に
受納。ゆく主従の義を。固せよ。相伴て。安房へ。かくも。ハ美勿論。と。使
えあひて。徵書と。人別小遞。と。受け。信乃。ホハ。遣て。并受。と。あひと。照文。ふ返し。
り。某。火事。ひふ。草木藩。小宿縁。わ。壁戸。後。小將軍。ま。管領。ま。徵。を。あひ
。とも。他禄。と。受へ。を。ゆく。ゆく。も。あひとも。今。俺们。五入の外。又。三天士。あ。を。あひま
す。人。小遣。を。さう。その。三士。へ。あひや。う。日。今。定ふ。つひ。と。とも。額藏。の。計。助。財。よ
同列の。大士。と。彼人。ひう。この。席。小缺。う。を。の。ぶ。は。せ。ん。彼。大川。莊助。故。伊豆。の。北條。の。井。官
大川。備。二。が。獨子。え。その。母親。ハ。蜜。崎。ぬ。の。先考。と。ゆ。の。え。二。郎。ぬ。の。後。室。を。そ
寛正六年の秋八月。ころ。父。衛。二。ハ。横死。し。妻子。ハ。追放。せ。ま。ぶ。け。う。この。年。莊助。六七
歳。乳名。を。莊。之。助。と。り。母親。ハ。キ。テ。と。粗。児。を。携。り。つ。ゆ。く。往。方。へ。水。長。鳥。安。房。小
親族。へ。蜜。崎。の。そ。は。娘。と。む。お。心。あ。て。ふ。そ。の。冬。の。比。べ。と。よ。武。藏。ま。ぐ。來。う。と。お。大。塚
の。里。ゆ。り。母。親。俄。頃。ふ。為。よ。う。ぬ。是。ゆ。り。莊。之。助。ハ。土地。の。社。官。墓。六。が。小。廟。ふ。け
れ。額。藏。と。名。つ。む。と。今。も。あ。彼。家。ゆ。あ。と。身。へ。村。落。ふ。成。長。れ。ど。も。武。藏。と。嘗。て
謀。慮。あ。い。孝。め。と。名。つ。む。と。今。も。あ。彼。家。ゆ。あ。と。身。へ。村。落。ふ。成。長。れ。ど。も。武。藏。と。嘗。て
彼。莊。助。と。俱。き。と。官。途。ふ。進。ま。が。是。不。義。と。愚。意。の。趣。か。く。の。如。い。質。察。せ。れ。
多。ひ。ま。う。ん。と。推。辭。バ。小。文。吾。現。ハ。も。辞。齊。一。亦。い。ふ。か。某。お。が。願。ふ。所。も。大。塚。と。相

まん。ひまがわつ。きとおは。みまき。ふめ。
同一圓大塚の里か妙を彼社助が對面し。ものとの事の趣を告げ。大塚を
まん。そぞら。ふる。まき。むくも。あま。さう。がまつ。うれん
べ。里見敵のりを爲小敵國の案内と。その強弱を窺知。後小貢と。まわん
さすが又この五人の外。二大士ある。ば。値どく。輕び。や。八士全く。聚りて。安房へ
ある。かと。あると。も。遲だ。ふあうじ。ひの徵書へ。その日。や。和殿頃より。ひと志を述へ。ご
ころをまき。え。よの。うえ。だずま。りん。まみ。を。うこ。の。ねこ。うち。ふん
照文。ゆく。嘆賞し。三士の辞讓寔。小賢。す。嚮。ふ。某。サ木崎。ふく。犬田生の大忍
の。れ。る。う。ぬ。感佩。く。也。小大勇士。あま。との。い。も。ま。ま。と。の。わう。と。ち。す。
かく。又。や。來。大塚生の信義博愛。犬飼生の遠慮。男力の。び。と。う。兄。と。せ。え。
孰。か。弟。と。け。れ。但。小笠世の豪傑。又。彼。犬川。社助。ハ。伊豆の北條の。社官。す。し。
衛。二。が。子。る。某。某。と。角。從。兄。弟。ま。の。え。犬川。衛。二。ハ。横。そ。く。そ。の。家。断。絶。を。と。
某。近。萬。北條。を。過。り。一。日。里。人。ほ。ほ。傳。使。そ。く。う。ま。う。く。名。ひ。う。ふ。そ。の。す。ハ。今。も
悉。悉。大士の。一。人。あ。と。ける。欽。幸。ひ。む。甚。北條。へ。ひ。父。の。故。鄉。す。と。す。の。多。
遠。く。も。あ。ぬ。類。族。の。え。ま。年。來。送。ふ。疎。隔。ゆ。そ。の。家。の。歿。絶。を。今。茲。不。下。そ。く。傳。
せ。し。戦。國。の。日。俗。是。非。ふ。及。ば。ぞ。そ。べ。と。ま。と。か。も。あ。と。三。士。の。辞。讓。も。諂。く。す。あ。と。
某。某。も。俱。か。大。塚。の。里。か。妙。を。彼。社。助。が。對。面。し。徵。書。を。授。く。べ。重。貴。僧。の。意
見。察。ま。ゆ。と。向。て。大。を。こ。ん。く。且。て。大。ハ。雲。煙。時。沉。吟。一。武。藏。名。大。塚。ゆ。ハ。管
領。扇。谷。麾。下。の。軍。將。大。石。兵。衛。尉。が。城。廓。あ。と。倘。額。藏。の。社。助。ハ。云。云。の。勇
士。す。ま。と。が。里。見。よ。う。募。ら。る。と。の。う。の。と。か。被。知。へ。洩。う。が。大。石。が。陣。番。ホ。社。助。を
取。能。く。決。と。も。あ。と。え。避。を。べ。き。を。さ。あ。る。や。わ。ぶ。可。惜。れ。一。犬。士。を。喪。ふ。み。あ。と。
や。貪。道。へ。行。脚。の。う。ま。と。彼。知。い。ゆ。と。く。社。助。が。對。面。し。命。を。傳。る。と。そ。
人の。疑。ひ。あ。と。び。あ。と。あれ。ど。も。蜜。嶋。生。さ。ま。く。四。大。士。と。識。ち。う。そ。の。一。人。ざ。も
俱。せ。び。と。く。安。房。へ。か。と。が。何。を。裹。何。を。徵。小。反。命。と。ま。に。ぎ。か。れ。ば。大。江。親。兵。衛。と

衣の兩袖サ沙羅離と列衣とうと身衣ハ首を引よせろ。身ノ包みを又裏ぐ
妙真ハ包みづう袖の兩齊間ハ絶く。身衣ハ被せらる。後の半身衣。それやこの世の別
を。知ども墓墓と相見ハト父。まよ叶へ。萬葉。吾儕も俱ゆと黄縁を。信ハ。賛
ひ矣。引放。糸の力の苦。歎。煩惱の犬飼。目をめぐらす。齊。悲歎
き。うけるかく。小文吾ハ腋刀拿。腰下跨。首級を右ひふ搔。太照。大別を
告。信乃現。八木後。四郎。おが尾。入江の浦。と密。謀。わく妙真
慰め。又將火の親兵衛が王の。身不堪。歎。不懶惰。失不身。心をつけて
身。起せば。嘆。時。目。身。う。入。を。よ。く。述。不。横。之。於。の。れ。夫。婦。の。亡。骸。の。丈。ハ。舊。の
姿。身。と。首。の。死。別。と。歎。身。の。形。勢。と。憂。愁。也。霧。小。焰。も。星。と。尚。暗。死。門。の。戸。を。卒。と
推。身。と。翅。志。それ。鳥。自。物。朝。立。遠。く。生。ふ。り。

里見八犬傳 第四輯 卷之四 終

